



令和8年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

令和8年1月14日

上場会社名 アクサホールディングス株式会社
コード番号 3536 URL <https://www.axas-hd.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 久岡 卓司
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理部長 (氏名) 新藤 達也 TEL 078-391-4000
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 令和8年8月期第1四半期の連結業績（令和7年9月1日～令和7年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
8年8月期第1四半期	3,024	11.6	91	464.9	41	—	30	—
7年8月期第1四半期	2,708	△3.1	16	—	△30	—	△50	—

(注) 包括利益 8年8月期第1四半期 46百万円 (—%) 7年8月期第1四半期 △47百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
8年8月期第1四半期	1.02	—
7年8月期第1四半期	△1.68	—

※ 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
8年8月期第1四半期	16,089	2,183	13.6	72.01
7年8月期	15,683	2,198	14.0	72.49

(参考) 自己資本 8年8月期第1四半期 2,183百万円 7年8月期 2,198百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
7年8月期	—	0.00	—	2.00	2.00
8年8月期	—				
8年8月期（予想）		0.00	—	2.00	2.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 令和8年8月期の連結業績予想（令和7年9月1日～令和8年8月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	6,738	11.7	226	354.2	149	—	143	—	4.73
通期	13,172	8.6	432	162.5	283	—	250	13.0	8.24

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
新規 一社 （社名）、除外 一社 （社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	8年8月期1Q	30,325,252株	7年8月期	30,325,252株
② 期末自己株式数	8年8月期1Q	1株	7年8月期	1株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	8年8月期1Q	30,325,251株	7年8月期1Q	30,325,251株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載している業績見通し等の将来に関する記述は、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定条件に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項につきましては、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

文中の将来に関する事項は、当第1四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間（令和7年9月1日から令和7年11月30日まで）のわが国の経済は、雇用・所得環境の改善に伴う個人消費の増加やインバウンド需要の拡大等により景気回復への期待が高まっているものの、米国の関税政策に伴う米中貿易摩擦再燃や食料品等の生活必需品の値上げによる物価高の影響等により消費者の節約志向が高まっております。そのような経済環境のなか、当社グループは、お客様の日常から最も近いところから「本当にいいものや必要とされるものを見極める感性を磨き続け、良質な提案をスピーディーにお届けすること」を最重要使命とし、グループ全体でお客様、そして地域社会の生活文化の質的な向上を「美・健康・ゆとりの側面」から応援し、顧客満足、社員満足を高めていくことで会社満足も高め、これら3つの満足によってグループ価値の更なる向上に努め、株主様、取引先様をはじめとするすべての関係者の皆様への利益還元と社会貢献の実現を目指しております。

具体的な取り組みとして、令和7年9月、国内外のブランドを問わず、使い勝手の良い生活雑貨と世界中のコスメティックが融合した、ビューティーライフスタイルショップ、アレックスコンフォートモラージュ柏（千葉県柏市）を千葉県に初出店いたしました。一方で、同年11月、アレックススポーツ沖浜店（徳島県徳島市）及び同店舗3階の好日山荘徳島山城店について、現状の収益と不動産賃貸事業に転換した場合の将来キャッシュ・フローを比較検討し、不動産賃貸事業への転換がより合理的であると判断し閉店し、同年12月、複合施設YAMASHIRO TERRACE（徳島県徳島市）内の旧アワーリカー沖浜店跡に移転・改装し、アレックススポーツ山城本店（徳島県徳島市）としてリニューアルオープンいたしました。また、当社グループは総合ライフスタイルカンパニーとして、常に新しい取り組みをお客様にお届けできるよう検討を行っており、その一環として、当社既存の業態とは別角度でお客様にアプローチするべく、同年10月、日本最大級のスタンディングバーチェーンである「お酒の美術館」のフランチャイズ店舗、お酒の美術館学園都市駅店（神戸市西区）を出店し、同年11月、中古車販売を行う「カーマッチ」のフランチャイズ店舗、カーマッチ神戸長田店（神戸市長田区）を出店いたしました。

その結果、当第1四半期連結会計期間におけるグループ店舗数は、38店舗となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高は3,024百万円（前年同四半期比11.6%増）となり、営業利益は91百万円（同464.9%増）、経常利益は41百万円（前年同四半期は経常損失30百万円）となりました。法人税等を計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は30百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失50百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

① 小売事業

小売事業につきましては、ヘルス&ビューティーケアユニットでは、プチプラコスメブランドのメイク商品等の販売が苦戦いたしました。インポートコスメやフレグランス等の販売が好調に推移いたしました。

ライフスタイルユニットでは、高品質ルームフレグランスの販売が落ち着き始めた一方で、素足で履ける秋冬サンダルの販売が好調に推移いたしました。

アスレユニットでは、プロサッカーチーム関連やマラソン大会関連の販売が剥落いたしました。前年同四半期、移転・改装のため一時休店していたアレックススポーツブルメール舞多聞店（神戸市垂水区）がリニューアルオープンしたこと等で売上が伸びました。

ホームキーパーユニットでは、専門文具等の筆記具の販売が苦戦した一方で、立体感とツヤ感のある立体的シールの販売が好調に推移いたしました。

アルコユニットでは、国産ウイスキーやシャトー系ワイン等の高単価商品の需要が一部で見られましたが、普段飲みする中価格帯のウイスキー等の販売が苦戦いたしました。

ECユニットでは、バスケットシューズやアウトドアブランドのアウター等の販売が好調に推移した一方で、販売価格を見直した影響でシャンパンやウイスキー等の販売が苦戦いたしました。

これらの結果、売上高は1,799百万円（前年同四半期比2.6%減）、セグメント利益は14百万円（同50.9%減）となりました。

② 卸売事業

卸売事業につきましては、ナイトマーケットの縮小や様々なものの値上げによる嗜好品等の買い控えにより、高級ウイスキーや高額ワイン等の売上が苦戦した一方で、インバウンド消費向けの販路拡大と、一部商品の値上げを抑えた販売推進により売上は伸びました。

六甲山蒸溜所においては、商品ラインナップの拡充とハイボール缶等による販売の上乗せもあり売上は大きく伸びました。

しかし、長引く円安の影響等により高止まりした仕入価格を全て販売価格に転嫁することは難しく、セグメント

全体の総利益を押し上げるには至りませんでした。

これらの結果、売上高は1,038百万円（前年同四半期比6.5%増）、セグメント利益は20百万円（同34.6%減）となりました。

③ 不動産事業

不動産賃貸事業につきましては、引き続き、所有物件の価値を維持、向上させることにより、物件の高稼働を維持しており、既存テナントから安定した売上を確保しております。また、一部店舗において、現状の収益と不動産賃貸事業へ転換した場合の収益の将来キャッシュ・フローを比較検討し、不動産賃貸事業への転換がより合理的であると判断した店舗について不動産賃貸事業へ転換いたしました。

不動産販売事業につきましては、販売用不動産の一部につきまして、対象不動産の仕入額や対象不動産に対する第三者機関による不動産鑑定評価額と売却価額を比較検討し、キャピタルゲインを含めた売却価額が十分に上回ったことにより、令和7年9月に売却いたしました。

これらの結果、売上高は368百万円（前年同四半期比127.5%増）、セグメント利益は135百万円（同172.7%増）となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は16,089百万円（前期末比2.6%増）となり、前連結会計年度末に比べ405百万円増加しました。これは主に、棚卸資産543百万円、売掛金105百万円等の増加に対し、販売用不動産108百万円、現金及び預金40百万円等の減少によるものであります。

負債合計は13,905百万円（同3.1%増）となり、前連結会計年度末に比べ420百万円増加しました。これは主に、買掛金192百万円、短期借入金230百万円等の増加に対し、1年内返済予定の長期借入金を含む長期借入金81百万円等の減少によるものであります。

純資産合計は2,183百万円（同0.7%減）となり、前連結会計年度末に比べ14百万円減少しました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益30百万円による利益剰余金の増加に対し、配当金の支払60百万円による利益剰余金の減少及びその他有価証券評価差額金15百万円の増加によるものであります。

以上の結果、自己資本比率は13.6%（同0.4ポイント減）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、令和7年10月14日付「令和7年8月期 決算短信〔日本基準〕（連結）」にて公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

なお、業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和7年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和7年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	800,867	760,697
売掛金	570,583	675,742
棚卸資産	4,835,517	5,378,950
販売用不動産	1,347,358	1,238,933
預け金	7,456	7,779
その他	271,631	193,633
流動資産合計	7,833,414	8,255,737
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,750,595	1,735,367
機械装置及び運搬具（純額）	208,425	201,396
什器備品（純額）	197,331	183,476
リース資産	29,245	27,085
土地	3,660,153	3,637,704
有形固定資産合計	5,845,750	5,785,032
無形固定資産		
のれん	518,164	508,239
借地権	58,348	58,348
ソフトウェア	77,125	70,543
電話加入権	7,821	7,821
無形固定資産合計	661,461	644,953
投資その他の資産		
投資有価証券	197,355	222,158
繰延税金資産	247,632	237,192
敷金及び保証金	559,572	557,918
破産更生債権等	4,686	4,686
その他	326,804	375,771
貸倒引当金	△4,686	△4,686
投資その他の資産合計	1,331,365	1,393,040
固定資産合計	7,838,577	7,823,026
繰延資産		
社債発行費	11,443	10,279
繰延資産合計	11,443	10,279
資産合計	15,683,435	16,089,043

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和7年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和7年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	481,447	673,943
短期借入金	8,480,000	8,710,000
1年内返済予定の長期借入金	348,461	348,461
リース債務	9,433	9,025
未払法人税等	32,725	3,798
賞与引当金	18,014	27,842
未払金	175,238	169,037
その他	88,089	200,861
流動負債合計	9,633,410	10,142,969
固定負債		
社債	800,000	800,000
長期借入金	2,419,996	2,338,444
リース債務	23,414	21,452
役員退職慰労引当金	100,939	101,000
資産除去債務	199,671	203,554
受入保証金	292,226	285,332
繰延税金負債	2,719	2,719
その他	12,911	9,873
固定負債合計	3,851,878	3,762,377
負債合計	13,485,288	13,905,346
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	1,686,487	1,686,487
利益剰余金	398,066	368,300
自己株式	△0	△0
株主資本合計	2,134,553	2,104,787
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	63,593	78,909
その他の包括利益累計額合計	63,593	78,909
純資産合計	2,198,146	2,183,696
負債純資産合計	15,683,435	16,089,043

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和7年9月1日 至 令和7年11月30日)
売上高	2,708,732	3,024,024
売上原価	1,978,011	2,216,033
売上総利益	730,720	807,991
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	199,976	216,964
その他	514,627	499,976
販売費及び一般管理費合計	714,603	716,941
営業利益	16,117	91,049
営業外収益		
受取利息	1,494	2,222
その他	1,656	811
営業外収益合計	3,150	3,034
営業外費用		
支払利息	34,405	38,218
為替差損	11,893	11,504
その他	3,426	3,216
営業外費用合計	49,726	52,939
経常利益又は経常損失(△)	△30,458	41,143
特別損失		
固定資産除却損	1,054	260
閉店損失	13,605	2,352
特別損失合計	14,659	2,612
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△45,117	38,531
法人税、住民税及び事業税	5,790	6,693
法人税等調整額	△32	954
法人税等合計	5,758	7,647
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△50,875	30,884
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△50,875	30,884

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和7年9月1日 至 令和7年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△50,875	30,884
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,849	15,316
その他の包括利益合計	3,849	15,316
四半期包括利益	△47,026	46,200
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△47,026	46,200

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間（自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			
	小 売 事 業	卸 売 事 業	不動産賃貸事業	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,704,826	842,647	—	2,547,474
その他の収益	—	—	160,832	160,832
外部顧客への売上高	1,704,826	842,647	160,832	2,708,307
セグメント間の内部売上高又は振替高	142,150	133,189	1,285	276,625
計	1,846,977	975,836	162,118	2,984,932
セグメント利益又は損失（△）	30,187	30,660	49,555	110,403

(単位：千円)

	その他（注）1	合 計	調整額（注）2	四 半 期 連 結 損 益 計 算 書 計 上 額（注）3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	425	2,547,900	—	2,547,900
その他の収益	—	160,832	—	160,832
外部顧客への売上高	425	2,708,732	—	2,708,732
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	276,625	△276,625	—
計	425	2,985,358	△276,625	2,708,732
セグメント利益又は損失（△）	△150	110,252	△94,135	16,117

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△94,135千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自 令和7年9月1日 至 令和7年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報 告 セ グ メ ン ト			
	小 売 事 業	卸 売 事 業	不動産賃貸事業	計
売上高				
顧客との契約から生じる収益	1,684,179	970,862	—	2,655,042
その他の収益	—	—	368,756	368,756
外部顧客への売上高	1,684,179	970,862	368,756	3,023,798
セグメント間の内部売上高又は振替高	115,417	68,036	—	183,453
計	1,799,597	1,038,898	368,756	3,207,252
セグメント利益	14,813	20,044	135,157	170,015

(単位：千円)

	その他（注）1	合 計	調整額（注）2	四 半 期 連 結 損 益 計 算 書 計上額（注）3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	226	2,655,268	—	2,655,268
その他の収益	—	368,756	—	368,756
外部顧客への売上高	226	3,024,024	—	3,024,024
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	183,453	△183,453	—
計	226	3,207,478	△183,453	3,024,024
セグメント利益	38	170,054	△79,004	91,049

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、保険代理業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額△79,004千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用です。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和6年9月1日 至 令和6年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和7年9月1日 至 令和7年11月30日)
減価償却費	79,203千円	73,922千円
のれんの償却額	9,925千円	9,925千円